

日本技術士会経営工学部会 4 月定例会  
「被災地復興の現状と課題」講話概要

2013. 4. 25  
岩手県技術士会・村井研二

1 被災状況

- ・ 宮古市田老・鉾ヶ崎・末広町地区、山田町山田地区、大槌町町方地区、釜石市東部地区、大船渡市大船渡地区及び陸前高田市高田地区の被災状況を、国土地理院の被災前後の航空写真や現地で撮影した被災後の写真をもとに紹介した。
- ・ 宮古市末広町と釜石市東部地区以外は壊滅的に被災した。
- ・ 特に各地区の漁港とその近隣の水産施設は全壊した。

2 復興の計画と現状

- ・ 県の復興計画3つの原則  
「安全の確保」「暮らしの再建」「なりわいの再生」を紹介し、「なりわいの再生」では商店街と水産業の再生が重要であることを説明した。
- ・ 各地区の復興まちづくり計画を紹介した。宮古市末広町と釜石市東部地区以外の中心市街地は復興区画整理で整備する。

3 「なりわい」の復興状況と課題

- ・ 産業の復興状況を最新の県アンケート調査結果で紹介した。
- ・ 県の復興実施計画では、「産地パワーアップ復興支援事業」として食品事業を中心に、アドバイザーによる品質管理指導、商品開発、販売ルート開発を支援し、「いわて農商工連携ファンダメンタル事業」によって農林水産物の加工や流通・販売等に取り組むモデル作りを支援し、「いわてフードコミュニケーション推進事業」で食産業を高い付加価値生産性を持つ総合産業として育成することとしている。
- ・ 本年2月に県が行った「被災事業所復興状況調査」では、水産加工業は、建物や設備の復旧は進んでいるが、売上が上がっていない。  
その課題は
  - ① 売上の減少や利益率の低下
  - ② 取引先数の減少
  - ③ 雇用・労働力の確保が困難にある。
- ・ 奥尻では、復興直後は賑わったが今はかつての漁師街の面影はなくなったと言われている。岩手ではそのようなことのないよう、復興を支援していきたい。

4 提案

(1) 技術士会のこれまでの取り組み

- ・ 当会経営工学部会では、平成23年8月15日から19日までの現地調査を皮切りに、県技術士会や岩手大学、釜石・大槌地域産業育成センターと連携して、産業の復興支援に取り組んできた。
- ・ 現地調査の結果、「まちおこしの人材育成」を最重要課題と捉え、「岩手三陸ブランドによるなりわいの創造」と「若人がU&Iターンできる魅力あるふるさとづくり」を基本目標に、まちおこし人材（プロデューサー）育成と水産加工等の中小企業のなりわいの再生に協力することとした。

- ・ 24年度は、岩手大学工学部大学院での授業、岩手大学三陸復興推進機構による「高度ものづくり人材育成講座 in 釜石」での「ビジネスプランニングプログラム」を実施した。
- (2) 他機関の取組み
- ・ いわて産業復興センター、東北未来創造イニシアティブ、東大、岩手大学三陸復興推進機構などが、街づくり・産業づくり・人づくりに取り組み始めている。
- (3) 復興まちづくり大槌株の設立
- ・ 県内被災市町村では「復興まちづくり会社」の設立に向かっているが、そのトップを切って「復興まちづくり大槌株」が3月1日に設立された。
  - ・ 同社は、町長が社長、県から派遣された町の部長が取締役、公募で採用された32歳と28歳の女性と23歳の男性が社員になっている。
- (4) 大槌復興への支援を！
- ・ 以上の状況を踏まえ、日本技術士会経営工学部会による復興支援として、活動を開始した各機関との連携のもと、新設された「復興まちづくり大槌株」との協働による水産加工業の再生支援を提案した。
  - ・ なお、中心市街地活性化等を活動目的とするNPO法人「まちづくり協会」では、「復興まちづくり大槌株」との協働による商店街の再生支援を検討している。